

# 第3回 日常診療経験交流会

【日時】6月10日(日) 9時30分～16時

医科・歯科融合

【会場】三井アーバンホテル大阪ベイタワー

## ●シンポジウム(午後1時～4時)

「生活習慣病の予防—公衆衛生の立場から—」

大阪大学大学院医学研究科公衆衛生学教室教授

磯 博康氏



「メタボリックシンドロームは正しく伝えられているか? ~分子のしくみから地域の取り組みまで」

大阪大学大学院医学系研究科 准教授  
大阪大学医学部附属病院・病院教授

船橋 徹氏



「訪問歯科診療における経口摂食の取り組み」

歯科医・松原市開業

塩井 孝氏



「食を基本に 思春期を見通した子育てを」

大阪千代田短期大学非常勤講師  
家庭栄養研究会 運営委員

山崎 万里氏



●参加費 歯科医師 1,000円、スタッフ 500円  
●昼食代 2,000円(希望者のみ事前予約)

お申し込みは  
協会(06-6568-7731)まで

シンポジウム事前抄録

### 私の訪問歯科診療(口腔リハビリで改善したケースについて)



シンポジスト  
紹介

塩井 孝氏(松原市開業)

私は歯科医院を開設して約19年になります。約10年前に地域の歯科医師会で訪問歯科診療事業を担当することになり、年に数件の訪問歯科診療を行うようになりました。診療所における診療では食べられるように治療

することはあっても患者さんが実際に食べている光景をみることはありません。訪問歯科診療に携わるとその逆で食べている光景を見てそこから対応を考へていくことが多くなります。食事の際、足底はしっかり

# 「未来を見つめる地域医療」 より良く食べるはより良く生きる

## ●分科会(午前9時30分～11時30分)

- 第一分科会 子ども
- 第二分科会 成人期
- 第三分科会 老年期、在宅医療・介護
- 第四分科会 日常診療一般
- ポスターセッション

### 分科会演題の事前抄録

#### 15分で語る子どもの食育

豊田 裕章(浪速区開業)

甘い食べ物に気をつけ、歯をしっかりとみがく、という考え方が理解され定着し、そして、フッ化物などの活用の広がりによって、子どもたちのむし歯は減少して、口の中の健康度が良くなったにもかかわらず、子どもたちの体力や心身の健康度は、年々低下しているように感じます。甘食制限や歯みがき・フッ化物だけでは、子どもたちは元気にならないのです。生きる力を育てるために最も大切な「食べる」と、に密接に関わっている歯科医師が、正しく「食育」を理解し伝えていくことが、不可欠だと思います。では、私たちは、地球人として、日本人として、より良く生きていくためには、何をどれだけどのようにして食べればよいのでしょうか?

第一に「できるだけ、近くのものを食べる」として活用・利用し、気候・風土に合った方法で食べる」ことです。日本で

甘い食べ物に気をつけ、歯をしっかりとみがく、という考え方が理解され定着し、そして、フッ化物などの活用の広がりによって、子どもたちのむし歯は減少して、口の中の健康度が良くなったにもかかわらず、子どもたちの体力や心身の健康度は、年々低下しているように感じます。甘食制限や歯みがき・フッ化物だけでは、子どもたちは元気にならないのです。生きる力を育てるために最も大切な「食べる」と、に密接に関わっている歯科医師が、正しく「食育」を理解し伝えていくことが、不可欠だと思います。では、私たちは、地球人として、日本人として、より良く生きていくためには、何をどれだけどのようにして食べればよいのでしょうか?

甘い食べ物に気をつけ、歯をしっかりとみがく、という考え方が理解され定着し、そして、フッ化物などの活用の広がりによって、子どもたちのむし歯は減少して、口の中の健康度が良くなったにもかかわらず、子どもたちの体力や心身の健康度は、年々低下しているように感じます。甘食制限や歯みがき・フッ化物だけでは、子どもたちは元気にならないのです。生きる力を育てるために最も大切な「食べる」と、に密接に関わっている歯科医師が、正しく「食育」を理解し伝えていくことが、不可欠だと思います。では、私たちは、地球人として、日本人として、より良く生きていくためには、何をどれだけどのようにして食べればよいのでしょうか?

#### よりよく食べるはよりよく生きる 噛めば体が強くなる

小山 栄三(枚方市開業)

唾液には脂質や澱粉を分解する酵素、抗菌作用のある物質や老化防止ホルモンなどが含まれています。その他に、酵素(カ

る)を消去する作用があります。保団連発行のパンフレットP9参照。驚くべき唾液パワー!唾液で発ガン物質が激減!今回はこの事実について、紹介させていただきます。日本人は20世紀の中頃までの長い歴史の中で、常によく噛んで食べてきました。この長い歴史を保つてきた噛む習慣がいま、失われてしまっています。その主な原因は急速な食生活の変化です。おいしい、食べやすい、よく売れるものが追求されてきました。スナック菓子・インスタント食品が氾濫し、食品添加物が広く使用されています。残留農薬、環境汚染なども深刻です。肥満や成人病(癌・脳卒中・心臓病)

が急速に国民のあいだに広まっています。これらの成人病には「活性酸素」が関与していると言われています。活性酸素は細胞内で、遺伝子DNAを損傷させ、突然変異・癌・老化を引き起こします。人間をくめ、すべての生物は大気中の酸素によって生かされていますが、しかし、またその酸素(活性酸素)によっても死んでいくという事実です。では、これを防ぐことはできないのでしょうか?重要な役割を果たしているのが唾液です。食物にある酸化物質です。噛めば体が強くなるとは、よく噛んで唾液を良く分泌することが健康になる大きな秘訣なのです。

女医が第一線で働き続ける

高橋 靖子(泉大津市開業)

女医が能力を生かし働き易くする為の環境作りについての議論は多く成され、本会においても以前特集が組まれたのは周知の通りです。女医が働き易い社会環境の整備がさらに進む事を願うばかりですが、私も卒後、結婚、二児の出産を経て、25年間働き続けて来ました。その間に、特に子育ての時期には方々からの中傷や嫌がらせに類する事などもありました。子どもが二人とも女性であり、あえて私の働く背中を見せるつもりで仕事を休む事はありませんでした。私の基本的な考え方として男女には性による特質の違いがあり、それが仕事上の不平等と成る現状が近い将来に解決されるとは思えません。従来より女性が外で働き続けようと思えば、概ね独身、離婚、未婚の母、家庭の犠牲などという方向へ行く事が多い様に思えます。しかし、近年、医学部、歯学部学生の50%が女性という時代においては、女医も男性と同じ土俵で同じ様に働かねばならないという男性の理屈はいずれは改善されねばならないと思います。そこで今回女医がその能力を十分発揮する為の身近な所からの私の工夫を発表したいと思います。

#### 女医が第一線で働き続ける

高橋 靖子(泉大津市開業)

女医が能力を生かし働き易くする為の環境作りについての議論は多く成され、本会においても以前特集が組まれたのは周知の通りです。女医が働き易い社会環境の整備がさらに進む事を願うばかりですが、私も卒後、結婚、二児の出産を経て、25年間働き続けて来ました。その間に、特に子育ての時期には方々からの中傷や嫌がらせに類する事などもありました。子どもが二人とも女性であり、あえて私の働く背中を見せるつもりで仕事を休む事はありませんでした。私の基本的な考え方として男女には性による特質の違いがあり、それが仕事上の不平等と成る現状が近い将来に解決されるとは思えません。従来より女性が外で働き続けようと思えば、概ね独身、離婚、未婚の母、家庭の犠牲などという方向へ行く事が多い様に思えます。しかし、近年、医学部、歯学部学生の50%が女性という時代においては、女医も男性と同じ土俵で同じ様に働かねばならないという男性の理屈はいずれは改善されねばならないと思います。そこで今回女医がその能力を十分発揮する為の身近な所からの私の工夫を発表したいと思います。